

みんなのとしよかん

みんなと

We♡図書館

2012 April

No.1

創刊号

特集1

広大図書館でLet's本探し!

特集2

推しホンバトル総選挙開催!



広島大学図書館

特集2 推しホンバトル総選挙開催!

図書館広報誌が学習の合間の息抜きになるような誌面にしたい... そんな思いから始まった推しホンバトル。

エントリー
No.1

推しホンタイトル: バッテリー (あさのあつこ) ペンネーム: アスラン

誰にでも戻りたい場所があるならば、私にと、戻れる場所は何処なんだろう。
戻りたくても戻れない場所だってある。でも、本の世界なら、いつだって戻、てこらえる。
いつかの思い出が、あ、とあ、と、今も叫んでる。だから....

何度でも、彼等に恋をする。

友情、なんて簡単に表しきれない彼等の関係を、何と呼んだらいいのだろうかと。
誰の視点から読むかによって、思いも、考えも、見方すべてが変わってしまう。
巧? 青波? 豪? それとも、海音寺? 月形? 瑞垣?
「個性」、て、ある意味 凶器。
でも、このマウンドは、バッターボックスは、野球ができるこの空間は... 違う。



バッテリー

あさの あつこ 著
角川書店



9割がバイトでも
最高のスタッフに育つ
ディズニーの教え方

福島 文二郎 著
中経出版

エントリー
No.2

推しホンタイトル: 9割がバイトでも最高のスタッフに育つ ディズニーの教え方 ペンネーム: ウィンゴツキー

夢の国、東京ディズニーランドはどのように運営されているのか! スタッフの9割は18000人のアルバイトで構成されている。学生や若者が多く、約半数の9千人が毎年入れ替わっている。そしてディズニーランドで働いているアルバイトの半分は働き始めて1年未満の初心者である。スキルも経験もない初心者アルバイトをプロフェッショナルに変える秘密は「見て憶える」では後輩は育たないという明確な指針である。つまり、ディズニーは企業として「後輩を育てるためには親身にならなければならない」との観念のもと、入社したアルバイトを「ゲスト」として迎え入れ、積極的に歓迎する。そんなアルバイトの真価を發揮させるのが「お喋り」のゲストへの接遇の提案である。華やかなショーやアトラクションの裏で絶えず語り、来場するゲストに夢の空間をその手提供する。彼らに共通するお客さんのホスピタリティを追求する

平成24年1月10日(火)~2月10日(金)まで各図書館で学生の皆さんからイチ推し本を募集しました。熱い思いの詰まった10冊の力作をご覧ください!!

エントリー
No.3

推しホンタイトル: はじめて考えるときのように ペンネーム: ねずま

論理的に考える、自分の頭で考える... いわゆるロジカルシンキングの手引きのようなものを想定して、この本を手にする僕のような人は多いだろう。
けれど、本を開く時にはき、と、その思いをすりと肩すかしされた代わりにき、が、真新しいような、それでいて昔からそばにあったような、暖かい質感を伴った「考えることの本質」の手がかりを握、ていることに気づく。
総てが軽妙な語り口で語られるいくつかの寓話の間に挟まれた、他愛ないけれど味あいのある風景画。最後のページを手繰る時、それはひとつの物語の場面であったことを示唆される。
そして再び「字のない絵本」としてこの本を読み返すと、き、最初に見た時には気づけなかった、たつ字の流木を見つけ、(何より)この絵からひとつの物語を編み上げようと「考えている」自分に気づかされる。
本棚の本が全てデジタルデータに置き換わったとしても 手に置いておきたい、大切に読まれた一冊。



はじめて考える
ときのように

野矢 茂樹 著
PHP研究所



「心理戦」で絶対に
負けない本

伊東 明 +
内藤 誼人 著
アスペクト

エントリー
No.4

推しホンタイトル: 「心理戦」で絶対に負けない本 ペンネーム: 浅桐

人間関係を変える。

人間関係は感情で動いている!
この本では、統計学的・科学的に実証された心理テクニックの解説がなされており、更にそのテクニックの実生活への応用方法も載っています。
詐欺師の使う心理テクニックやその対策も載っているのでもう馬鹿されない!!

推しホン10冊の中から一番読みたくなった本に投票して下さい。
投票箱は図書館においてあります。結果発表は次号で!

エントリー
No.5

推しホンタイトル: 頭のいい大学四年間の生き方 ペンネーム: Asuka

「偏差値の高い大学に入れば”幸せな将来が約束される”時代ではなくなっている 今日この頃。変化の激しい世の中を生き抜くために、大学でいかに「勉強」するかについて書かれた本です。

「これからは自分で勉強法を決める時代だ」「勉強は方法したいで成果が違う」など、大学での勉強法のヒントを求める1年生には特にオススメ。

もちろん、自分の大学での生き方に喝を入れたい2年生以上の方にもオススメです。



頭のいい
大学四年間の
生き方

和田 秀樹 著
中経出版



モモ

ミヒヤエル・エンデ 著
岩波書店

エントリー
No.6

推しホンタイトル: モモ ペンネーム: まずま

「平均寿命が180歳、今20歳だからあと60年生きて...」って自分の余命を秒換算してみてもう1ヶ月になったことのある人は必読の一冊。

便利な機械に囲まれ、豊かなはずの私達の生活は、なぜか便利になれなくなるほど忙しくなる。つまり、心が豊かなくなる。

時間に追われる。時間の無駄。時間の節約... はて、時間とは一体なんぞ?

もう何十年前に書かれた子供向けの物語なんだけど、これ外がなかにどうして馬鹿にできない。時計にせき立てられて、仕事に追われ、人間が大事なものを失っている現代社会をことごとく予言してる。

時間とは、生きることとは。どんなに便利を世の中になっても忘れたくない。本当に大切なことを教えてくれる物語。

推しホン=イチ推しの本 という意味です。
今まで知らなかった自分に会える。自分とは違った読み方を知る機会になる。
推薦者のプロデュース力を磨けるかも(!?)

エントリー
No.7

推しホンタイトル: 『現代倫理学入門』 ペンネーム: 柀

加藤尚武著、講談社学術文庫。

「人を助けるために嘘をつくことは許されるか」、「現在の人間は未来の人間に対する義務があるか」、「正義は時代によって変わるか」といった現代の倫理学で議論される身近な問題が扱われています。それぞれの問題に対する考え方が、ベンサムやミルの功利主義や、カント、ロールズの立場から示されていて、倫理学の入門書としてとても読みやすいと思います。もちろん、倫理学を学びたいという人以外にも、現代社会の抱える道徳的な疑問に興味のある人、現代の社会や人間の在り方に疑問を感じている人など、様々な立場の人、ひいては全ての方にとって一読の価値有りです!

全15章がそれぞれ独立しているため、興味を持った章だけを読んで、詳しく知りたいと思った場合には引用と紹介を頼りに専門書を読み進める、ということも可能です。

忙しい日々の中でふと立ち止まって、学ばず、考え、議論する時間を持つのは重要なことだと思います。そんな時、この一冊が一助となることは、間違いありません。



現代倫理学
入門

加藤 尚武 著
講談社



鴨川ホルモー

万城目 学 著
産業編集センター

エントリー
No.8

推しホンタイトル: 鴨川ホルモー ペンネーム: アスラン

新 人生...大量のサークル筆談の紙。
いかにあやしいサークルの紙をもらいませんでしたか?
それは、大学の近くでもらいましたか?
そもそも、何で自分1年、で分かんたんだろ、ってもらった後思いませんでしたか?
— ええ、理由があるんです。
新歓コンパの場所が、居酒屋 **バズバズ**ばあなんて名前じゃありませんでしたか?

...あなたには、**ホルモー**の罠が近づいているかもしれないよ。

そこにあるのは **笑い? 涙? 青春?** それとも...

万城目ワールドを知ってほしい! これぞ立派な **恋愛小説!** (笑)

エントリー
No.9

推しホンタイトル: 『恋文の技術』 ペンネーム: 夏目
ポイント

1. 主人公 守田はぜんぜん恋文✉を書けない。
2. 「お●はい」「●っはい」と頻出するが、エロスのかけらもない。
3. 卒業かかっているのに、パソコンと実験データが消える。

果たして守田は恋文の技術を開発し、想いを伝えることが出来るのか?
(卒業も)

能登半島の研究所に飛ばされた大学院生が送る
かすかすの「なんでもない」手紙。

『恋文の技術』森見登美彦(ポプラ社)



恋文の技術

森見 登美彦 著
ポプラ社



Rovering to Success

A Guide for Young Manhood

Robert Baden-Powell 著
Stevens Pub Co

エントリー
No.10

推しホンタイトル: ROVERING TO SUCCESS ペンネーム: stealth

人生における「成功」「幸福」とは何か?
 また貧富を問わず幸福になる方法、全てがこの一冊に書かれています。
 早なる自己啓発の本ではありません。
 生まれてから死ぬまで、自分の体を鍛えること、本を読むこと、酒や女性との付き合い、
 男らしさとは何かまで全てが書かれています。
 本当に思いつく限り全ての項目がこの本には詰まっています。
 “男なら絶対に必読の本だ”と自負します。
 読めば“分かります”
 この本を読まないで“大学生生活を、入生を終えるなんて、男として入としてもたないです”
 “もし、この本を読んで何も感じないようであれば、それは悲しいことだ”と思います。

いかがでしたか?気になる1冊は決まりましたか?ぜひ図書館に来て投票して下さい。

編集後記

図書館の広報誌「みんと」はいかがでしたか?今後も、ちょっとした図書館の利用テクニックや、本に関する企画を特集していきます。また見つけたら、気軽に手に取ってくださいね♪